

第67回



品質月間

2026年11月1日～11月30日

テーマ

●今こそみんなで共創しよう! 未来を拓く品質の力

Now Is the Time for All of Us to Co Create! The Power of Quality to Open Up the Future

品質月間(Quality Month)を迎えて

現在、自然環境や政治・経済環境に加え、AIなどの技術環境が急速に変化しています。このような環境変化の中で未来を切り拓くために品質の力はますます重要になってきています。品質には、結果やプロセスを多面的に評価し、改善へと結びつける力が考えられます。また、品質にはモノの良し悪しだけでなく、企業内外の人々や顧客を結びつけ、協力することで得られる信頼や喜びを創出する力も考えられます。しかし一人で考えているだけでは品質の力を十分発揮できないかもしれません。

品質の力を最大限に発揮するために、今こそ「共創」が重要です。共創は異なる立場や業種の人・団体が協力して新たな商品・サービスや価値観を作り出すことです。協力による顧客価値の創造や社会的価値の創造は共創です。また職場における業務改善の取り組みや環境変化に対応しながら協力して改善を進めること、過去の失敗から学び間違いを減らすことも共創です。さらに、DXやAIなどの新技術や情報を活用し、新たな価値を生み出すことも共創です。こうした共創を推進するためにTQMは進化していますし、新たな試みもすでに実施されています。

共創を通じて互いの信頼感を深めることで、協力することの喜びに気づくことができます。一人では諦めていたことが、協力することで実現できる楽しさがあります。チームとして期待し合い、その期待に応えることで得られる成長と達成感があります。品質月間が、品質の力を発揮してみんなが未来に向けて喜びを感じながら共創する機会になれば、これに勝る喜びはありません。

第67回品質月間委員会委員長
石津 昌平(青山学院大学 名誉教授)

品質月間委員会

委員長

石津 昌平 青山学院大学 名誉教授

副委員長

丸山 一彦 和光大学 経済経営学部 経営学科 教授
光藤 義郎 一般財団法人 日本科学技術連盟 嘱託

委員

荒木 裕行 花王株式会社
製造統括部 基幹技術部 部長
磯貝 高行 日本経済新聞社
編集 ビジネス報道ユニット長
伊藤 桂一 株式会社日立製作所 モノづくり戦略本部
企画部 シニアプロフェッショナル
小川 慎一 横浜国立大学 大学院
国際社会科学研究院 教授
烏 章典 株式会社竹中工務店
経営企画室TQM推進部 部長

沢 茂樹 株式会社リコー SCM本部 品質統括センター
QM推進室 QM推進グループ エキスパート
鈴木 孝一 株式会社ケアコム 顧問
高橋 純一 JSR 株式会社
製品・品質保証部 部長
千原 康史 株式会社LIXIL 安全・品質統括部 品質企画部
品質教育グループ 主査
富永 雄二郎 本田技研工業株式会社 品質改革本部
グローバル品質監理部 品質監理課 チーフエンジニア
名倉 三加代 グローリー株式会社
生産本部 生産企画部 専門課長
藤井 貴美子 NECプラットフォームズ株式会社 CS品質推進部門
品質推進統括部 シニアプロフェッショナル
森田 晶彦 株式会社IHI 高度情報マネジメント統括本部
企画管理部 管理グループ 品質・安全チーム チーム長
吉水 健二 アサヒグループホールディングス株式会社
Supply Chain Quality Risk Manager

主催団体 委員

小野寺 将人 一般財団法人 日本科学技術連盟
専務理事・事務局長
佐々木 和人 日本商工会議所 事業部 部長
下境 健一 一般財団法人 日本規格協会 業務執行理事

後援団体 委員

田中 大輔 一般財団法人 日本消費者協会 事務局長
柳本 直行 公益財団法人 日本生産性本部
顧客価値創造センター・経営品質協議会
事務局長

(敬称略 五十音順 ※但し、委員長、副委員長除く)

掲載している情報は2026年7月1日時点のものです。

■主催

品質月間委員会 一般財団法人 日本科学技術連盟
日本商工会議所 一般財団法人 日本規格協会

■後援

NHK 一般社団法人 日本品質管理学会 公益財団法人 日本生産性本部
一般社団法人 日本能率協会 一般財団法人 日本消費者協会 QCサークル本部
一般社団法人 日本経済団体連合会 一般社団法人 品質工学会

品質月間ホームページ(<http://q-month.jp/>)もご参照ください

第
67
回

品質月間特別講演会

講演概要

- 今年度もZoomによるオンラインで開催いたします。
- PC、タブレット、スマートフォンからご参加いただけます。
- 日程、講演内容は準備でき次第、順次品質月間サイトへ掲載予定です。
(詳しくは月間サイトへ <http://q-month.jp>)

参加申込要領

【参加料】 1講演 ¥3,300(税込)

品質月間テキストの料金は含みません。テキスト購入サイトよりご購入ください。

【申込方法】

JSA Webdesk からお申込みください。

トップページ(<https://webdesk.jsa.or.jp>)
⇒セミナー・説明会・SQ大会
または、「品質月間 講演会」で検索

お申込みいただいた方には、請求書を原則開講1か月前にお送りいたします。請求書に記載の期日までにお振り込みをお願いいたします。
定員になり次第、お申込みを締め切らせていただきます。
詳細はウェブサイトをご覧ください。

【キャンセルの取り扱いとお願い】

キャンセルの場合は開催1週間前までに Webdesk「お問い合わせフォーム」によりご連絡をお願いいたします。ご欠席の場合は返金をいたしませんので、代理の方のご出席をお薦めいたします。なお、キャンセル・ポリシーは以下の通りです。

●ライブ配信

セミナー開講日の7日前より受講料全額(100%)のキャンセル料を申し受けます。

【ライブ配信について】

ライブ配信 セミナーでは、Zoom Web 会議サービスを利用いたします。

<動作環境>

受講用パソコン及びモバイルの動作環境については、Zoom の最新のシステム要件をご確認ください。

<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>

受講前にこちらをご確認ください。

https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/seminar/kensyu_kaijyo/live1.pdf

お申込みはお早めに!!

ご予約受付

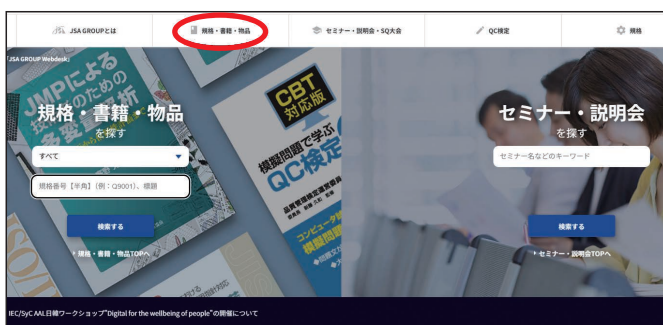
第67回 品質月間資料お申込み方法

お申込み方法はJSA Webdeskをご覧ください。

1

JSA Webdeskを開く(<https://webdesk.jsa.or.jp>)

(「JSA Webdesk」でインターネット検索!)



2

書籍の画像が目印!

「規格・書籍・物品」のアイコンをクリック!



3

次の画面で「品質月間」のアイコンをクリック!

クリック後は画面の案内に従い、お申込みください。

Webdeskからのご注文を優先して発送いたします!

- ・FAXでご注文いただくよりも、送付手数料が安く、納期が早い!
(Webdeskでのご注文は550円、FAXでのご注文は660円、送付手数料を申し受けます。)
- ・来年度以降、ご予約開始時期をメールでご案内!
- ・「ご注文の確認メール」が届いて安心!

(従来通りFAXでご注文される方も、上記の画面にお進みください。WebサイトからFAX注文書をダウンロードいただけます。)



標準化で、世界をつなげる。
JSAGROUP
日本規格協会グループ SINCE 1945

販売サービスチーム

〒108-0073 東京都港区三田3-11-28 三田Avanti
TEL 050-1742-6256 / Email csd@jsa.or.jp

67回目の品質月間がやってきます。 各社で工夫されて効果的な品質月間を 実施してください。

各社で行う品質月間行事（一例）

- 品質の総点検
- 社内パンフレットなどの作成・配布
- 品質月間特別講演会、クオリティフォーラムなどへの参加
- Q旗の掲揚、品質月間ポスター・標語の掲示
- 社内報を品質管理(TQM)特集号とする
- 内部監査や社長などによるTQM診断の実施
- 論文などの募集・選考
- 社内の品質管理(TQM)大会の開催、関連する表彰式の実施
- 品質月間テキストなどの購入・配布
- TQMの観点からみたトップへの働きかけなど

ポスター

(多色刷)

- 全社的に各職場に掲示してください。
- 大きさ：72.5cm × 50cm
- 定価：各種(AまたはB) 1枚…… 440円(税込)
1セット(2枚1組)…… 726円(税込)

2種類のポスターより1種類1枚からご購入が可能です。
2種類1組のセット販売も行っております。

ポスターデジタルデータ

- 定価：各種(AまたはB) 1枚…… 33,000円(税込)
1セット(2枚1組)…… 55,000円(税込)

※利用範囲は、購入者と同一の法人格を有する
すべての事業所(国内外を問わない)を含みます。
※利用数の制限はございません。(コピーして利用可能)
※印刷しての利用はできかねます。
※電子ポスター利用規約および同意書の提出が必要となります。

(A)



(B)



社名入りポスター

- 社名入り品質月間ポスターのご注文を受け付けております。
- 社名入りポスターを活用し、活気ある月間運動を!!

- お受けする枚数：1点500枚以上
- お申込受付期間：2026年9月30日迄
- 定 価：1点1枚…… 363円(税込) ※バラ売りです

- 別途印刷費(税込・送料込)
- 500～1,000枚 一律…… 44,000円
- 1,001～2,000枚 //…… 49,500円
- 2,001～3,000枚 //…… 55,000円
- 3,001～4,000枚 //…… 60,500円

胸章

(2色刷)

- 全社員の胸にみんなの合言葉を!
- 大きさ：直径5cm
- 定 価：10個1組(袋)…… 671円(税込)
50個1組(袋)…… 3,201円(税込)



*廃棄については各自治体の“決まり”をご確認ください。
市販の安全ピン、抗菌配合のノンフタル酸塩化ビニールフィルムを使用しています。

卓上のぼり

- 受付やデスク周りに手軽に設置できます。
- 大きさ：幅12cm×高さ(台座まで)36cm
- 定 価：2,915円(税込)



Q 旗

- 生産意欲を一つに結ぶ目印です。
全社的に各職場に掲揚してください。



A1 (掲揚型)



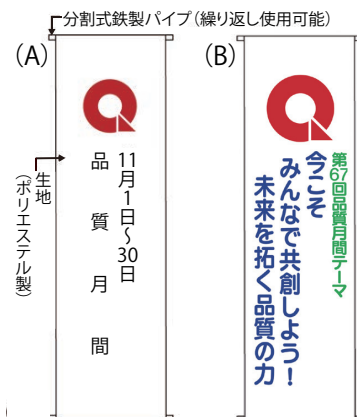
A2 (つり下げ型)

種 類	大 き さ	定 価
A1 (掲揚型)	105cm×155cm	2,915円 (税込)
A2 (つり下げ型)	105cm×155cm	2,915円 (税込)
B (掲揚型)	90cm×130cm	2,618円 (税込)
特大 (掲揚型)	140cm×210cm	5,049円 (税込)

垂 幕

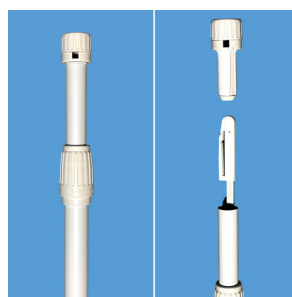
- 各事業所に掲揚してください。
大 き さ：A・Bとも255cm×92cm

種 類	定 価
Aセット(生地+鉄製パイプ)	5,368円(税込)
Bセット(生地+鉄製パイプ)	5,368円(税込)
垂幕生地A	3,201円(税込)
垂幕生地B	3,201円(税込)
垂幕用鉄製パイプ	2,167円(税込)



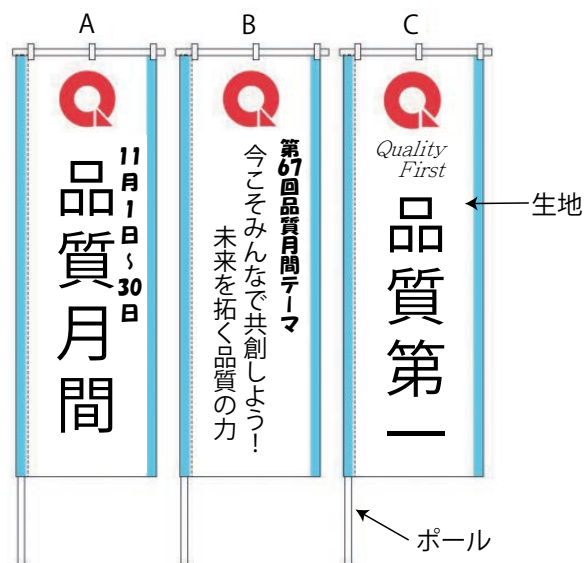
のぼり

- 各事業所に設置してください。
種 類：A(品質月間タイプ)
B(月間テーマタイプ)
C(品質第一タイプ)
- のぼり生地 大 き さ：A・B・Cとも 60cm×180cm



ポール
材 質：スチール(樹脂被膜鋼管)他
大 き さ：本体L1600～3000mm
横棒L855mm
日本製

種 類	定 価
Aセット(生地+ポール+注水台[置き台])	8,668円(税込)
Bセット(生地+ポール+注水台[置き台])	8,668円(税込)
Cセット(生地+ポール+注水台[置き台])	8,668円(税込)
のぼり生地A	2,167円(税込)
のぼり生地B	2,167円(税込)
のぼり生地C	2,167円(税込)
のぼり用ポール	1,452円(税込)
のぼり用注水台[置き台]	5,049円(税込)



注水台〔置き台〕
材 質：ポリエチレン・ポリプロピレン
色：ホワイト
大 き さ：約390×390×h230mm
タンク容量：16リットル
満水時重量：約17kg
適応パイプ径：19φmm～25φmm
日本製

標 語

- 全社的に各職場に掲示してください。
- 大 き さ：12cm×37.5cm
- 定 価：1セット(5枚1組)…385円(税込)



※垂幕(生地・鉄製パイプ)、のぼり(生地・ポール・注水台)は単品個別販売を行っております。
※各商品のデザインは若干修正される場合がございます。
※数量に限りがございますためご注文はお早めをお願いいたします。

品質月間テキスト

●7種・A5判 / 各 定価726円(税込)
●テキスト(7種・各1冊)のセット販売をいたします。[1セット定価:4,323円(税込)]

第67回目を迎える品質月間では、次の7冊のテキストを販売いたします。
仕事に役立つ知識や事例がたくさん詰まっています。是非、皆様のスキルアップの一環として、あるいは品質活動に関する教材として品質月間テキストをご活用ください。

No.	対 象	テキストタイトルと主な内容	編著者
485	部課長 スタッフ	1.『QFD業務機能展開の発展的活用による仕事の見える化 －仕事に意味を与え、人と組織を持続的に成長させる－』 「仕事の見える化」とは、単に業務内容や手順を図や表にすることではなく、仕事の目的や価値を明らかにし、為すべき業務と求められる達成水準を体系的に整理して、共通認識をつくることである。本テキストでは、QFD(品質機能展開)の一翼を担う業務機能展開を発展的に活用し、「作業としての仕事」を「使命としての仕事」に変え、働きがいと自律性を高め、組織全体のパフォーマンス向上につなげる方法論を紹介する。	原賀 秀昭 著
486	部課長 スタッフ	2.『デジタルとAIで大きく変わった失敗学 －AIが発達しても人が抱く違和感が大事－』 「失敗学」は、過去の事故や不祥事を分析して教訓を抽出する学問として発展してきた。しかし、デジタル技術とAIの進展により、失敗学は単なる事後分析や教訓共有の活動から、現場の違和感を起点にリスクを発見し、組織全体で共有・検討しながら失敗を未然に防ぐ活動へと大きく変わりつつある。本テキストでは、知床遊覧船事故、タイタニック号沈没、ノートルダム大聖堂・首里城正殿の火災、身近なPCトラブルなどの事例を通じて、AIがどれほど高度化しても、失敗防止作戦を始めるためには、人間が「アレっ、変だな」と感じる違和感が不可欠であることを示す。さらに、違和感をスマホやデジタルツールで共有し、AIによってリスクを具体化することで、AI時代にふさわしい新しい失敗学の実践方法を紹介する。	東京大学名誉教授 中尾 政之 著
487	現場	3.『大学体育会におけるQCサークル活動の実践 －玉川大学体育会バスケットボール部に見る「みんなで共創」の取組み－』 玉川大学体育会バスケットボール部は、2026年より始まる特別強化指定部としての活動に向けて、部全体として組織能力の強化に取り組んでいた。その流れの一つとして、2025年よりマネージャーを中心にQCサークル活動を開始した。この活動は、メンバーの問題解決能力の育成だけに留まらず、部(組織)全体における試合及び練習に対する「共創」意識の向上にも繋がっていった。大学の事例ではあるが、本書を通じて「QCサークル活動とTQM(活動と経営)」及び「共創」の概念が広まり、企業などの組織を推進するヒントになれば幸いである。	玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授 木内 正光 著
488	トップ	4.『共創×生成AI実践ガイドブック －品質活動の基本を生成AI時代に問い直す－』 2022年以降、生成AIが急速に進化し、組織活動への活用も試行から実践へと広がりつつある。重要なのは、生成AIを品質活動の代替ではなく、その基本を問い直し、実践を支援する道具として位置づけることである。生成AIは、不良分析や顧客の声の要約、標準書の下書きなどを支援できるが、それだけで品質は向上しない。結果を現場の実態と照合し、改善を標準として定着させるのは人間である。本テキストが据える原則は、人間が問いを立て、生成AIが選択肢を広げるという役割分担にある。ここで目指すのは単なる効率化ではなく、人同士、部門間、組織間、さらには顧客や生成AIとの共創を通じて、予想を超える価値、すなわちDelightを生み出すことである。	関西大学名誉教授 荒木 孝治 著
489	現場	5.『全員参加による未然防止活動の実践』 近年、品質保証、安全管理、不正防止などの様々な分野で、計画段階で起こりそうな問題を洗い出し、予め対策を講じることが求められるようになってきた。このような活動は未然防止活動と呼ばれるが、その実践は容易ではなく、どう進めてよいか、多くの組織が悩んでいる。本テキストでは、未然防止の考え方、未然防止活動に役立つ手順や手法を解説するとともに、未然防止活動に取り組んでいる職場の推進事例・活動事例を紹介する。	中央大学 社会理工学部 教授 中條 武志 編
490	トップ	6.『AIで時間をつくり、人が価値をつくる －TQMを基盤としたAI時代の人中心経営－』 松本工業株式会社では、企業理念とTQMという不変の土台の上に、AIを現場に取り入れる挑戦を進めている。AIはやがて電気や水のように誰もが使えるコモディティになる。差を生み出すのは、AI自体ではなく人であり、組織である。人を育て、現場の知恵を磨き続ける会社だけが強くなる。AIで生み出した時間を、人にしかできない判断、改善、価値創造へと再配分する。TQM奨励賞受賞企業によるAI時代の人中心経営の姿を示す。	松本工業株式会社 代表取締役社長 舘下 繁仁 著
491	部課長 スタッフ	7.『ヒューマンエラーのなぜなぜ分析－その考え方と実践的コツ－』 ヒューマンエラーや規則違反などの人間の不適切な行為が関係して事故・トラブルが発生した場合、人間の不適切な行為の理由を明らかにして対策を立てるなぜなぜ分析が有効である。しかし、この分析の実施に苦勞する人が多い。そこで、本テキストでは、なぜなぜ分析の基本的な考え方と実践的コツを解説する。	日本人間工学会認定 人間工学専門家 佐相 邦英 著

※テキストのタイトル・編著者など一部が変更になる場合もございますので予めご了承ください。